

六華奨学基金について

高商同窓会編集部

昭和37年12月26日、本校乙種第一回（大正6年3月）卒業生の佐藤富一郎氏（昭和44年11月14日死去 享年68歳）が、東京電力株式会社の株式（2,400株、120万円）を寄贈された。佐藤氏は高田市南本町3丁目出身で就職のため上京され、大同レザー株式会社を興され、東京都江戸川区の区長も務められた。

同時に、東京電力増資分800株を7名の諸氏（樫野利雄 5万円、岩崎六郎 5万円、篠宮耕治 5万円、川浦栄一 1万円、大島精一郎 5万円、箕輪秀一 6万円、星野常吉 5万円 計32万円）が引き受け寄贈され、佐藤氏寄贈分の株式と合わせて昭和39年に六華奨学基金が発足した。

その後、有償増資・無償増資を合わせて最終的に15,163株となっていた。この株式を売却し会館建設資金として利用するに当たって、奨学金制度は継続するということから奨学基金として3,000万円を金銭信託に残し、残りを会館建設資金に充てた。

奨学金は給付制度で返済の義務はなく、給付月額が5千円が長く続いた。配当金も年75万円にもなっていたので、各学年3～4名の給付体制が続いた。発足以来、この段階で延べ153名が奨学金を受けていた。